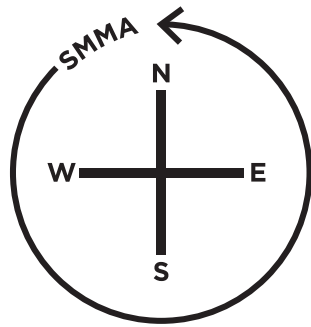


東西・南北、街の魅力とミュージアムが交差する。



2015年12月6日、仙台市営地下鉄東西線が開通します。開通によって変わるのは、その沿線ばかりではありません。南北線やJR線、さらにバスなどの公共交通機関を利用するたくさんの人々にとっても、新しく東西軸が大きくクロスすることの意味は大きいはず。ある人はこれまで遠く感じていたところが一気に近くなるでしょう。またある人は駅をはしごしながら街あるきを楽しむかもしれません。乗り換えひとつで科学館と動物園、博物館と歴史民俗資料館をはしごするのだって楽ちんです。新しい足はこんなふう、これまで接点の少なかった街と街、人と人をクロスさせるだけでなく、異なるミュージアムどうし、さらには街の魅力とミュージアムをクロスさせてくれるでしょう。

今回は地下鉄東西線開通にちなみ、それぞれ特色ある街とのつながりを持つ3施設にお話しをうかがいました。あなたも新しい出会いを探して、最寄りの駅からふらりと出かけてみませんか？

土地の記憶と未来の街がクロスする

世界で唯一、地底から見つかった氷河期の森を見られる 地底の森ミュージアム。



地底の森ミュージアムに入るには、地上から約4m下るスロープを通ります。実はここがタイムトンネルの入り口。館に入ると、すぐ目の前に2万年前の森の遺跡が広がります。シカのフンや、そのシカを追っていたハンターたちがキャンプをした焚き火の跡もそのまま保存。当時の自然環境と人の生活の痕跡が、生々しく残されているのです。感じてほしいのは、まさにこの場

所にあった出来事だということ。2万年というと遠い昔の話のようですが、この遺跡もかつて確かに存在した仙台の風景です。ミュージアムに隣接する田んぼで古代米をつくったり、生き物を観察する「みんなでどろんこ！生きもの観察in地底の森」といったイベントを行っています。こうした日常では味わえない『ふしぎ』に出会える場所だということを感じていただきたいのです。当時の植生に近い野外展示「氷河期の森」は、周辺の街並みに囲まれた憩いの場所としても定着しています。現在の仙台には生育していない植物の間を歩き、街の過去と未来に思いを馳せるひとときを過ごしてみたいいかがですか？



4 仙台市縄文の森公園



公園内に整備をすすめている「(仮称)ふれあい動物園」(平成29年オープン予定)で披露するため、鳥たちのフライングの特訓中です。登場する鳥はマゼランフウミミズク(写真上)やハリスホーク(写真下)、ルリコンゴウインコを予定しています。お楽しみに。



仙台市八木山動物公園飼育展示課普及調整係長／獣医師 釜谷大輔さん

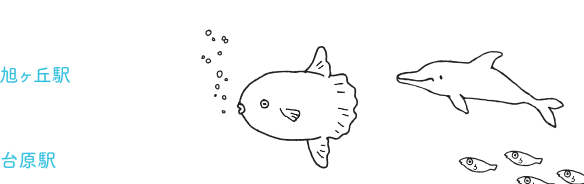
生き物たちと街の暮らしがクロスする

仙台市八木山動物公園は、多くの生き物たちに親しめる場所。

仙台市八木山動物公園飼育展示課普及調整係長／獣医師 釜谷大輔さん

地下鉄駅の床には、動物たちの足型を用意しています。そこから入園して、真っ先に通るのがビジターセンター。ここではゾウやキリンといった大型動物の骨格標本を、皆さんを出迎えるように展示しています。動物園だから当たり前なのですが、実はとても珍しい展示なんです。意外に思うかもしれませんが、ゾウの鼻には骨がなく、筋肉だけ。だから骨格の隣に鼻だけの複製も展示しています。こうした標本から体のつくりを知ってもらえると、動物に会った時の印象が変わるかもしれませんね。さまざまな動物の特徴を知る楽しさを感じてもらいたいです。

動物公園には、すでに地下鉄での来園相談が多く寄せられています。動物公園といえば家族が自家用車で訪れるイメージかもしれませんが、これからは市街地で車を持たずに暮らす、都市型生活を送る人の来園も増えそうです。もちろん大人だけでの来園も大歓迎。東西線の東側に「仙台うみの杜水族館」が開通したことで、この仙台で多様な生き物との出会いを楽しんでもらえると思います。



旭ヶ丘駅

台原駅

勾当台公園駅

桜ヶ岡駅

五橋駅

愛宕橋駅

長町南駅

6 地底の森ミュージアム

4 仙台市縄文の森公園



街の佇まいと文学がクロスする



仙台文学館 学芸室長 赤間亜生さん

仙台ゆかりの文学や作家について紹介している仙台文学館。

品や作家にスポットをあてた特別展・常設展にも力を入れています。文学館を飛び出し、お気に入りの文学作品に登場する現実の場所を訪れるのも、大きな楽しみのひとつです。

例えば、仙台に生まれ明治から昭和を生きた歴史家・相馬黒光。新宿・中村屋の創業者であり、「中村屋サロン」で多くの芸術家を支援したことで知られていますが、彼女の回想録『広瀬川の畔』には、明治中ごろの仙台の情景がリアルと描写されています。黒光が暮らした地域に行ったり、当時の街の様子を今の風景と重ね合わせたりすると、当時と変わったとはいえ、私達が今見ている風景にも、黒光が生きていた時のよすがを感じることが出来ます。

想像を豊かにして、自分なりにとどんで作品に入り込む楽しさは格別です。文学館には、そのきっかけとなる文学との出会いや、理解を深める手がかりをたくさん用意しています。「せんだい文学マップ」と「マップでイメージする せんだいで生まれた文学たち」(写真右。どちらも来館の上、希望者へ配布)は、街に息づく文学との関わりが一目でわかるようになっています。文学館は、街とミュージアムがつながる交差点でもあるのです。



ミュージアムでは街の文化がクロスする

街からミュージアムへ、ミュージアムから街へ。行ったり来たりする楽しさを味わったことはありますか？街で何か気になることがあったら、ぜひ調べてみてください。すぐに解決することも、なかなか分からないこともあるけれど、ミュージアムはきっと、そのお手伝いができます。ひとつだけコツがあります。新しい発見や出会いを楽しむことです。

今回お話しをうかがった館には、それぞれ街とのつながりがたくさんありました。街が大きく変わるこの機会に、自分だけの発見、自分だけの出会いを探しに、お気に入りのミュージアムを訪ねてみてはいかがでしょう。

取材・文 仙台市博物館 学芸員 酒井 昌一郎

大人も子どもも楽しく学べる

ミュージアムユニバース

～すてき・ふしぎ・おもしろい～

SMMAに参加する15のミュージアムがせんだいメディアテークに大集合！各館のスタッフによる様々な企画を開催します。会場は「トークとイベントの広場」、「体験の広場」、「展示の広場」、「ミュージアムグッズショップ」の4つのコーナーに分かれ、ミュージアムのとっておきの資料や情報にふれることができます。

4度目の開催となる今年は、ミュージアム同士によるこの2日間だけのコラボレーション企画も多数開催します。また、ミュージアムのスタッフと直接交流ができるのもミュージアムユニバースの大きな魅力です。さまざまな企画に参加して、「知る」ことの楽しさをぜひ体験してください。

地下鉄東西線を使えば2会場間の移動も簡単です！

せんだいメディアテーク 徒歩約13分 大町西公園駅 地下鉄9分 八木山動物公園駅 下車すぐ 仙台市八木山動物公園

新規参加館紹介

今年度からSMMAに参加した4館のミュージアムをご紹介します。各館の皆さんにミュージアムの魅力を聞いてみました。



仙台うみの杜水族館



ペンギンが行き来するガラス階段

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



福島家が収集した絵画や工芸品などが並ぶ展示室

「当館はシニアの方の来館が多いですね」と語るのは、学芸員の尾暮まゆみさん。仙台の実業家・福島慎蔵のコレクションを展示している福島美術館では、東日本大震災後は県外からの来館者が増えたといいます。「加えて震災以降は自分の郷土について考える若い方も増えたと思います。そうした方々に少々のアットホームな郷土の姿を知っていただきたいです。展示品の意味がすぐには分からなくても、後々自分の知識と経験が繋がって新たな見方が生まれてくるはずですよ。」

福島美術館の魅力は、作品にどっぷりひたれること。「来館者の方々の『つぶやきの一と』を見ると、作品を通して自分の人生をふりかえることができた、という感想をよく聞かれます。そうした時間をゆったり楽しんでいただきたいですね。」



学芸員 尾暮まゆみさん

東北学院大学博物館



調査研究の成果を紹介する企画展示の様子

東北学院大学土樋キャンパスに隣接する博物館では、大学の研究成果や、博物館の実習生たちが考えた企画展などを公開しています。「学生自身による展示解説など、当館ならではの体験をすることができます」と学芸員の加藤幸治さんはいます。「最近では地元の子供たちと大学をつなぐことを目指して、学生と一緒に小学生向けの体験イベントなども行っています。子どもたちは「お兄さんたち」が一緒に、とてもいい反応を見せてくれるんですよ。」

大学博物館の魅力は、展示テーマの多様さ。「研究の成果を紹介する展示は、教員の数だけテーマがあります。また文化財フェスや活動や他大学との連携など、大学独自の自由なつながりから生まれる展示も展示しています。そうした展示の広がりこそが当館の醍醐味です。」



学芸員 加藤幸治さん

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



鉄道模型館(展示会期中の土曜のみ開館)

JR東北福祉大前駅の目の前にある小さな鉄道資料館には、親子連れや年配の方、ビジネスマンや子どもたちなど様々な人が訪れます。学芸員の鈴木佳子さんは、このステーションを「近所のパン屋みたいな資料館」にしたいといいます。「例えば家の近所にあったパン屋の美味しさに地元を離れて初めて気づくみたいに、子どもたちが大人になった時に「じわっ」と思い出してくれるような資料館でありたいです。」

年に3回行われる企画展では、他にはない「変化」が起こることがあります。「展示の間に情報の“すきま”を作っておくと、鉄道ファンの方が新たな情報や秘蔵資料を提供してくれることがあります。常設展を持たない当館では同テーマの企画展があつても何年後に開けるか分からないので、貴重なものであれば会期中でも展示します。そうした展示の広がりこそが当館の醍醐味です。」



学芸員 鈴木佳子さん

ここで紹介したのはほんの一部。ぜひ各館に足を運んで、ミュージアムの魅力をたくさん見つけてください。

SMMA事務局 吉田

